

きたかなづせいぶいせき
1. 北金津西部遺跡

所在地：あわら市北金津

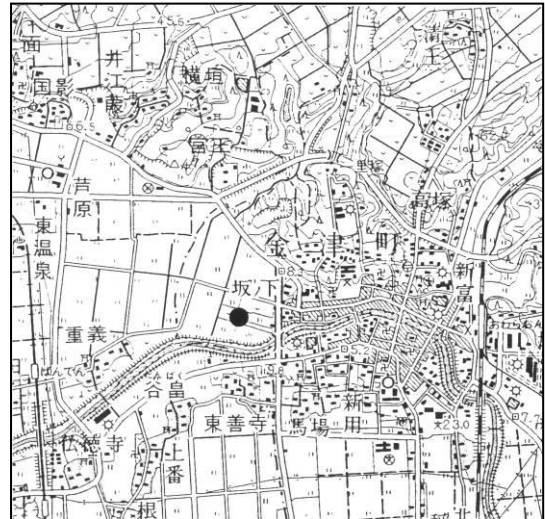
調査原因：病院建設

調査期間：平成 22 年 7 月 26 日～8 月 25 日

調査主体：あわら市教育委員会

調査面積：約 450 m²

時代：古墳・奈良・平安時代、中世



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 北金津西部遺跡は、竹田川右岸の旧芦原町・金津町の境界にまたがる広大な遺跡です。今回の調査地は、その東端付近の畑地で、隣接地を平成 20 年度に店舗建設に伴い発掘調査を実施していて、今回は 2 度目の調査です。病院建設計画に伴い実施した確認調査では、中央部の南寄りの調査区で溝跡らしき遺構を確認しました。調査範囲を絞り込むため、再度試掘調査を実施した後、本調査は、試掘トレンチを拡幅した東西約 20m×南北約 16m の範囲で実施し、最終的には北側を拡幅し、南北長は最大部で 24m となりました。

遺構 竹田川に近い立地と、過去の耕作等による地形改変で全域にかなりの攪乱が及んでいる状況で、明確な遺構は少数でした。当初、幅約 2 m の溝と判断した遺構は、調査区中央付近から西方に緩やかに傾斜する遺物包含層の上部と判明しました。サブトレンチにより遺物包含層の拡がりを追跡した結果、調査区を北側に拡幅しましたが、包含層は全域に渡るものではなく、落ち込み等に後の攪乱等が重なった可能性を想起しました。

他には、性格不詳の約 4 m の隅丸方形を呈する土坑や径約 1 m の円形土坑を各 1 基、土坑数基、近年のものと思われる二条の溝を検出し、さらに稲架木穴らしい小穴やかなり大きな攪乱跡も確認しました。

遺物 遺物は、古墳時代前期の土師器が主であり、器種は、器台、小型丸底壺、ミニチュア土器等です。他に須恵器、少量の土師質小皿、越前焼、磁器等で、コンテナで確認・試掘調査の 1 箱分を加え、計 12 箱分が出土しました。

まとめ 当初、隣接地と同様に律令期頃の遺跡と予想していましたが、古墳時代の資料が得られました。竹田川の両岸には自然堤防が形成され、市域の上流の伊井地区では左岸に弥生時代終末期頃の遺跡が帯状に発達しますが、下流の右岸では堀江十楽遺跡以外に同時期の目立った遺跡がありませんでした。

今回は、明確な遺構に伴うものではないものの、空白部の補完資料となります。

また、律令期の遺物も出土し、今回の調査範囲から除外した駐車場部分等には遺構の分布する可能性も想定され、隣接調査地と同じく、重複時期に北方の丘陵上に立地する菜山崎遺跡との関係にも注意されます。

(橋本幸久)



調査区全景（南から）



確認調査土師器検出状況（南から）



作業風景（東から）



土坑内土師器検出状況（西から）



出土遺物（土師器、右下：須恵器）